

社会福祉法人



埼玉いのちの電話

ひとりぼっちで悩まずに……048-645-4343 こどもライン048-640-6400

発行人：小川 瑞穂 編集：広報委員会
 発行所：社会福祉法人 埼玉いのちの電話
 〒337-8692 大宮郵便局私書箱第29号
 電話：048-645-4322
 FAX：048-645-4355
<http://www.sainet.or.jp/~sai-id>



共同募金の配分
金で作り直しました。



夜はやさし

作詞：長谷川孝水
 作曲：長谷川きよし

夜はやさし 月は昇り
 全てのを 魔法の時間に変える
 今宵君の その手を取り歩けば
 ほろごらん あんなに長い影法師
 遠い遠い昔 出会った頃のまもの
 無邪気な笑顔をこっそり見せておくれ
 夜はやさし 人はさみし
 たしかなものは 繋ぎ合う手のぬくもり

夜はやさし 風もひそか
 あなたの胸に 耳をあて鼓動を聞いている
 今宵踊りたい 若き日のように
 兔のように 震えてた
 初めての くちづけ
 長い長い時を とともに過ごしてきた
 喜びも悲しみも思い出が溢れ出すわ
 夜はやさし 人はさみし
 たしかなものは 繋ぎ合う手のぬくもり
 広い広い宇宙でめぐり逢った奇跡
 ありふれた日常 かけがえのない日々
 夜はやさし 人はさみし
 たしかなものは 繋ぎ合う手のぬくもり
 繋ぎ合う手のぬくもり

JASRAC 出 1301994-301

あなたのご支援を必要としています。

いのちの電話の活動は、多くの善意あるボランティアの無償の奉仕によって支えられています。
 現在 24 時間、365 日休まず相談を受けていますが、相談員の養成、研修、電話センターの維持管理、
 広報活動費など、運営には多額の経費が必要です。
 この活動をご理解いただき、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

振込先：郵便振替 00140-9-137380

：埼玉りそな銀行大宮支店（普通）4315510

（福）埼玉いのちの電話

事務局：社会福祉法人 埼玉いのちの電話

〒337-8692 大宮郵便局私書箱第29号 TEL 048-645-4322

一人ひとりの生きる力を信じて

こころに響くいのちの音♪

“左手のピアニスト” 智内威雄さんを招いて

埼玉いのちの電話では、ピアニストの智内威雄さん、歌手の千花有黄さんを招き、ピアノ演奏と対談による講演会を開催しました。2013年11月6日、さいたま市の埼玉会館大ホールは大勢の聴衆でいっぱいになりました。

♪左手のピアノ音楽

コンサートは『アヴェ・マリア』（シューベルト）で始まりました。左手だけで演奏しているとは思えない深い響き、豊かな音色が会場を満たします。智内さんは“左手の音楽”を始めてちょうど10年になりますが、震災以降、必ず一番最初にこの曲を演奏しています。日本の伝統芸能のように、舞台を清めてから演奏するという意識を大切にするためです。

“左手のピアノ音楽”は、第一次世界大戦で右腕を失ったり、運動障害を持ってしまった音楽家たちの、それでも音楽を続けたいという強い思いから発祥しました。「片手では半分の音しか出せないから弱点だと思われてしまいましたが、彼らはそれを逆手にとって個性にしてしまったんですね。人の心に届く表現を追求し、作曲者はもちろん演奏者もペダルを駆使するなど工夫しています」

♪前に進むしかなくて

演奏の間には、ステージ上に設けられた椅子に腰かけ、千花さんとの対談が行われました。

千花「早速ですけど、病気のことをお伺いしてもよろしいですか」

智内「僕の場合は右手に障がいがあって左手で始めたのではなく、音楽をやっているうちに右手に障がいが出てしまいました。局所性ジストニア。だんだん手指のコントロールが効かなくなり、結局3年間リハビリしました」

千花「障がいがあったとき、絶望的な気持ちになったのでは？」

智内「そのときは、とにかく前に進むしかなくて、なんとか元通りに戻そうとリハビリに一生懸命でした。でも昔には戻れないんだということに気づいてしまって、そこで初めて、ピアニストとしての自分がある意味がないんじゃないかと、すっからかんの状態になりましたね」



♪繭を破って出ていったら

千花「ズバッと聞いてしまいますけど、死にたいという思いは浮かびませんでしたか？」

智内「死にたいというより、抜け殻になってしまったというか、生きながら浮遊しているような感じというか」

千花「本当につらいときって、そうなんですかね」

智内「僕の場合、遠く離れていたけれど両親の存在が大きかったですね。リハビリ中、引きこもりみたいな状態だったのを放っておいてくれた。『人間だれしも蚕みたいに繭の中に入っている時期も必要だ』と言ってくれて。繭を破って出ていったら、だれか見守ってくれているという気持ちはあったんです」

千花「ご両親や周りの支えは大きいですね」

♪弱点があるからこそ見つけれられる世界がある

和やかな対談を挟みながらコンサートは続きます。日本の唱歌『かたつむり』『冬景色』なども演奏されました。智内さんは、左手のピアニストとして活動する中で、ふと気づきます。「僕がやっていた“左手の音楽”というのは全て上級者用のものでした。でも障がいのある子どもたちにもピアノという選択肢があってもいいじゃないか。おじいちゃんの前で弾いても同級生の前で弾いても、みんなから拍手をもらえるような曲は何だろうか」それが唱歌でした。

智内さんは、音楽家のためだけでなく、ハンディをもった子どもや初心者のための左手のピアノ楽曲の楽譜作成に取り組んでいます。智内さんが代表を務める任意団体「左手のアーカイブ」では、“左手の音楽”をオンライン上（「左手のアーカイブ」ホームページ上）で無償にて映像公開しており、その運営は、募金された方に楽譜やCDをプレゼントするという形で成り立っています。

♪音楽を通して寄り添う

この日ならではのユニークな試みもありました。智内さんは「自分ひとりで演奏するのはもったいない」と、千花さんによる歌と朗読、そしてピアノ伴奏という演出を考えました。「ぜひ東北の夜空に想いを馳せて聴いてほしい」という『星めぐりの歌』（宮沢賢治）を、異色のコラボレーションで披露しました。智内さんはこの夏、気仙沼市と岩沼市で演奏する予定です。

千花「どうして被災された方や犠牲になった方への鎮魂歌というか、そういう活動を？」

智内「震災で失われたのは人の命だけでなく、文化とか、先ほどの民謡もそうですね。人知れずなくなっていくものを保存し、ピアノ演奏や歌などで生まれ変わらせるのも、僕たちアーティストの仕事なんじゃないかと思います」

千花「同じ舞台上に立たせていただいて、思いが伝わってきました」

智内「演奏会では一瞬でも音楽を通して寄り添えるような、何かそういう時間を持てたらいいなと思います」

最後の『前奏曲と夜想曲』（スクリャーピン）は、ドイツでリハビリ中に出会い、再び音楽をするという希望を見出すきっかけになった曲で、常にコンサートの一番最後に演奏しています。「出来ないこと」ではなく「出来ること」に目を向け、新境地を切り拓いたピアニストたちの思いを伝えたいと話していた智内さん、その“左手の音楽”は、ご来場くださった皆様の心に深く沁み渡ったことと思います。

（文責・広報委員会）



プロフィール

智内威雄さん（埼玉県蕨市出身）は、ハノーファー音楽大学（ドイツ）留学中、数々の賞に輝くも、右手にジストニアを発症し、リハビリに専念。その後、左手のみで行った室内楽の卒業試験にて満場一致での最優秀成績を収めました。現在は「左手のピアニスト」として左手楽曲の魅力を広めるため国内外で活躍しています。

千花有黄さん（福岡県出身、さいたま市在住）は、現在、演歌歌手として活躍中で、文化放送「千花有黄つれづれ散歩道」（毎日曜日 6時40分）のパーソナリティを務めています。

智内さんと千花さんからいただいたメッセージを本誌6頁に掲載します。

埼玉いのちの電話 公開講演会

絵本作家 葉 祥明



2012年12月8日、クラッセ川越にて公開講演会『ここに響くいのちの言葉』を催しました。電話予約ですぐに満席になり、以降予約をお断りしなければなりませんでした。ご希望に添えなかった方々にお詫びいたします。

絵を鑑賞しながらのお話、質疑応答、詩の朗読、一時間半ほど、安らぎのひとつときを過ごしていただけたかと思っています。ほんの一部ですが、葉祥明さんのお話を紹介します。

青空が一番のテキストだった

そのとき10歳の僕は考えたわけです。これから10年間、学校がある。嫌なテストがあって点数をつけられる。高校もテスト。大学も入るのにテスト。学校を終えたら自由に生きられるんだろうなと10歳の僕は浅はかにも思ったわけです。大学までかと思った。

大学の4年生になって教務課に行くとパーッと張り紙が出ていた。大学の案内みたいなのが出ている。神戸製鋼、伊藤忠、なんとか商事。僕知らないんです。疎いんです。それは企業というもので、試験を受けて入って…、えーって思った。朝9時に行って夜5時。普通はもっと残業。これじゃ学校と同じじゃないか。僕はもう学校は終わりだと思っていたんですよ。これはいかん。なんとかしなきゃいけない。僕は僕にできること、僕の好きなことは何だろうと考えた。絵と文学。

小学校のときは授業中に外ばかり見ていた。青空を見ている。雲が流れるのを見ている。「よそ見しちゃダメ」とよく叱られた。注意散漫とか書かれた。

僕は小学校のときから自分なりの勉強をしていたんです。それ以来、僕は青空を何万回描いたことか。青空を描き、それで食って生きてきた。僕にとって青空が一番のテキストだった。見ても見ても見飽きない。今もそう。夕方、どこかの高い駅のホームから、夕焼けを見る、日没を見る、お月さんを見る。いつも上を向いて歩いている。

自由に生きたかった

今の時代、自分とは何ぞや、自分はこうだと、自分に意識を向けた人にとって、当時の僕と同じように行き場がない。みんなと同じように、といっても、それもできないし、したくない。どうしたらいいのかと途方に暮れている人は多いんじゃないか。

この世の中のシステムはどうも自分には合わないということがわかった。その後は、もう僕は自分らしく生きてきた。これには大いに自信があります。僕らしくないときは、「これは僕ではない」とわかる。

僕は今、だから言えます。どうしたかったのか。それは自由です。自由に生きたかったんです。自由というのは、自らの由（みずからのよし）です。由とは「わけ」です。自分が自分でいるわけ。一言でいうと、自分らしさ、それが自由です。僕は僕らしさ。葉祥明らしさ。みなさんも一人ひとりそうです。

医療法人 社団 群羊会

<http://www2n.biglobe.ne.jp/~fukuin>

耳鼻咽喉科 **福音診療所**

〒364-0023 埼玉県北本市下石戸下1549-51
TEL 048-592-2862
FAX 048-593-5067



内科・小児科 **南福音診療所**

〒364-0021 埼玉県北本市北本宿161-4
TEL 048-591-7191
FAX 048-591-9668

愛と献身 ふれあい 診療

僕は信じている

僕はよく人から言われます。葉さんのその底なしの楽天的な態度はどこから来たんですかと。僕は信じている、宇宙を、太陽を、地球を、四季折々の大自然を、そして世の中と人々を。僕をだまそうと思ってもだませない、信じているから。不信のままっつらい人生を送るよりも、信じていたほうがいい。たとえだまされても、だまされたとは感じない。本当に能天気ですね（笑）。

微笑が人を癒す 優しいひとと言が人を救う

ほほえみ。人を癒す笑顔。にこっと笑ってあげる。そうすると相手もニコッと。

バカヤローと言ったらバカヤローと返ってくるけど、ありがとうと言うとありがとうと返ってくる。微笑めば、ほほえみが返ってくるんです。微笑んだのに、眉をつりあげて「何だ！」と、そういうおじさんもたまにはいるかもしれないけど（笑）。普通は微笑めばほほえみが。

そして優しいひとと言。魔法の言葉です。言葉が人を救うんです。

相手の話を聴く、聴く、聴く。聴くことに徹する。そしてふっと言葉が出てくる。頭で考えたのではなくて、ずっと聴いていて、聴いていて、ふっと心に浮かんだ言葉が口から出てしまう。それがすごく相手の心に響くのではないかというふうに思います。



僕も年をとるにしたがって随分カラフルにお花畑の絵を描くようになってきました。こういうあったかいものを描いたり見たりしたいな。

しあわせなこと

好きであること。それをやっていると夢中になれること。しあわせがある。我を忘れる。

葉祥明くんは空ばかり見ている。その空がこんにちの僕を。税金もきちんと払える僕を。

好きなことをやって食っていければ一番いいと思うけど、それはできないとみんな思い込んでいる。夢も希望も奇蹟もないと思込んでいる。好きなことをやって生きていける時代と世界です。子どもには好きなことをやらせてあげてください。

そうするとしあわせです、その子は。そうすると、しあわせなこと、自分らしくやらせてくれた親に感謝します。そうすると親を泣かせることはしない。

（文責・広報委員会）





地域を知るともっと楽しくなる!!

埼玉新聞

(毎) (朝) (届) (け) (て) (1) (カ) (月)

2,900円

購読のお申し込みは ☎0120-633-888

埼玉新聞社

お2人からメッセージが届いています！（ピアノ演奏&対談）

“左手のピアニスト” 智内威雄さん

2回目の打ち合わせの後に、いのちの電話の施設を見学させていただきました。ガラス越しに、相談員の方々が電話でお話をされている様子を拝見しました。縁（えにし）の灯火に向き合う事は、忍耐のいる大切な作業だと思います。その繋がりを大切にしている方々が、目の前にいることを知りました。

水や食料だけでは満たされない命があります。消えかけた縁から、絶望や孤独感を感じる事があります。そこに欠けたものは何なのか。そこに足りないものは何なのか。もしかしたら我々音楽家も、縁の灯火を舞台から照らす事が出来るかもしれない。そんな事を思いながら、当日の埼玉会館大ホールのステージに立ちました。演奏を通して、左手の音楽からもらった希望を皆様に少しでも伝えたいという思いでいました。

私は留学中に局所性ジストニアにより、右手に運動障害を患い、ドイツで長い期間をリハビリに費やしてきました。手のコントロールを失い、ゼロからのスタートでした。ひたすら前を向いて全力で回復を目指しました。しかし回復するにつれて、「完全に元に戻る」と強く信じ、思い描いていた理想の状態にはならないことが見えてきました。そこで初めて大きな挫折を味わうことになりました。そんな時

に左手の音楽との出会いがありました。その素晴らしい音楽は、戦争や様々な事故、もしくは病により右手に運動障害が発症したピアニストが切り開いた分野であり、彼らの祈りにも似た思いが、楽曲を生み出しました。そして、それらは、私のように違う時代、違う国のピアニストに音楽の喜びを与えてくれました。

そして今、私は、多くの人に片手演奏の希望を与える事を目標に音源収録や楽譜頒布を続けています。子どもたちにもその希望をバトンタッチしたいと考えています。私の夢は、障害の在る無しにかかわらず、片手演奏を通して、両手・片手という垣根を超えた音楽を楽しめる環境を作ることです。

形は違えども、私も希望を伝えられるよう活動を続けていきたいと思っています。いのちの電話の方々との出会いは私にとって大きな刺激になりました。そしてその活動に大いに感動いたしました。

最後になりましたが、当日は本当に多くの方に足をお運びいただき感謝しております。対談形式でコラボレーションさせていただいた千花さん、いのちの電話の皆様へ感謝いたします。ありがとうございました。



千花有黄さん

この度は、2013年の年頭から「いのち」の大切さを考えさせていただくイベントに携わることができましたこと大変感謝致しております。当初初めて、智内さんの演奏をお聞きし驚きました。左手だけでこれだけの演奏をされるとは、どれほどまでピアノに打ち込んできたのか。その情熱と言葉に表せない思いをピアノの音の響きを通して感じました。

私も中学時代、同級生にいじめられ「いのちの電話」に家庭環境、学校のことなど実情を相談員さん聞いていただいた経験があります。その後歌手生活においてもどん底の毎日。このまま生きていてもしょうがないということの連続でした。そんな私がなぜこうして元気で活動できているか？それは「歌を諦めなかったこと」、「正直にありのままの自分をさらけ出してきた」と思うのです。そこから再発し勇気を持って前に進む。その時あまり成果はないか

もしれないけどじっとこらえながらもコツコツと、目標に向かって行けば必ず、昨日より、先週より、半年前よりよくなっていくと思うのです。目標は人によって違いますし、同じ人間はいません。好きなことや、些細なことを続けていけば個性になります。

私も今後、自分の体験した過去を教訓として大事にしなが、あの時の「いのちの電話」があった、その後も心を寄せて支えてくれる人があったからこそ今の自分があるのだということを再認識しながら聞いてくださる人が励みになり心を揺さぶるような、自分にしかできないコンサートや作品作りに励んでいきたいと思っています。



長谷川きよしチャリティコンサートご案内



長谷川きよしさんからのメッセージ

“生きていくのが辛いと思う瞬間を体験した人はたくさんいると思います。このまま死んでしまえたらどんなに…と思うことは僕にも何度かありました。

でも、それをなんとか乗り越えて生きていけば、「生きててよかった!」、「人生ってなんて素晴らしいんだろう!」と思える時が必ず訪れるのです。

僕の歌にも、生きていくことの辛さ、愛すること、別れることの苦しさを歌ったもののほうが多いと思います。でも、長い人生を生きてきてこそたどり着ける幸せ、充足感を歌ったものもたくさんあります。「生きていくこと」について考える良い機会になるようなコンサートにしたいと思っています。”



きよし
さん

日 時 2013年10月6日(日)
開 演 16時00分(開場15時00分)
場 所 大宮ソニックシティ大ホール
(大宮駅西口徒歩3分)

料 金 S指定席(1Fと2Fの一部) 4,000円
A指定席(2Fと1Fの一部) 3,000円

販売開始: 2013年6月17日午前10時より受付
申込方法: 電話、FAX(チラシ裏面利用の事)、
埼玉いのちの電話ホームページ

問合せ先: 埼玉いのちの電話
(048-645-4322)

共演者 林正樹(ピアノ)
アンディー・ベヴァン
(サクソ、フルート、その他)
コスマス・カピッツァ
(パーカッション)

長谷川きよしさんのプロフィール

1949年東京生まれ。2歳の時失明。筑波大学付属盲学校卒業。12歳でクラシックギターを始める。小原佑公氏に師事。67年、石井好子事務所主催のシャンソンコンクールで入賞。69年に「別れのサンバ」でデビューし大ヒット。シンガー・ソングライターとして多彩な活動を展開。「黒の舟唄」「灰色の瞳」など多くの作品がある。

2012年10月に通算20枚目のオリジナルアルバム「人生という名の旅」をリリース。高い評価を受けている。

長谷川きよしさんは50歳前後やそれ以上の方にとっては、よくご存知のシンガー・ソングライターです。NHKラジオ深夜便で「夜はやさし」が連日流れ、若い世代にもファンが増えています。

多くの方のご参加をお待ちしています。

(事業委員会)

早起きになる。
季節の気配に気づく。
空を見上げたくなる。
一日がゆっくり流れる。

ポラスの分譲 検索

「快適」のヒミツを公開中!

さいたま市南區、若谷南區、柏南區にて
住宅販売総合部門 No.1
(2010年度実績 住宅販売研究発表会)

パレットコートみずぎの街 リンデンバウムの家

その土地の風土と調へ、家々の配置や共有スペースを考える。街全体で計画することで、一戸一戸の快適をつくりたい。
一年を通しての陽当たりや風通し。家のまわりの緑や景観。考え抜かれた住み心地を、ご自分の目で確かめてください。

すべての家の「快適」を街全体でつくる。ポラスの分譲。 POLUS

あゆみ

- 2012年
 12月12日 新座市生活支援センター「埼玉いのちの電話について」講演に講師派遣
 15日 相談員募集説明会 所沢ミュージズ
- 2013年
 1月 5日 相談員募集説明会 大宮ソニック市民ホール
 6日 講演会「ピアノ演奏&対談」埼玉会館大ホール
 7日 震災ダイヤル（他17日、25日）
 10日 フリーダイヤル
 19日 23期生初級講座「性Ⅱ」講師：藤本千弥子氏
 28日 川越市自殺対策連絡協議会に参加
 2月 2日 相談員&22期生「緊急電話のためのリエーション」震災ダイヤル（他11日、19日、27日）
 4日 第63回後援会理事会 埼玉会館
 9日 23期生初級講座「自殺」講師：米沢 宏氏
 14日 新座市電話相談員研修（精神障害者相談）に講師派遣
 15日 三郷市鷹野小学校 成人教育委員会「子どもの為に親が出来る事」講演に講師派遣
 16・17・22・23日 24期生相談員応募者面接
 24日 全体交流会「自殺予防のネットワークを作るために」
 3月 7日 震災ダイヤル（他16日、24日）
 10日 フリーダイヤル
 16日 第18回チャリティ映画会「海洋天堂」バザー同時開催 大宮ソニック小ホール
 16日 23期生「電話に出るためのリエーション」
 26日 理事会・評議員会

ご来場ありがとうございました！ 葉 祥明 公開講演会

絵本作家・葉祥明さんの講演会は熱気に溢れ定員200名の会場は満席になりました。52名の方からアンケートの回答をいただきました。一部を紹介します。

- ・私も好きな絵で生活できるようにがんばっていきたいと思います。
- ・子どもの頃より葉祥明さんの大ファンです。
- ・葉祥明さん、とても正直で、頭のいい方、茶目っ気があって楽しかったです。
- ・自分らしさを大切にすることが生きるパワーにつながると思いました。
- ・考えすぎ、こだわりすぎはやめようと思った。
- ・心に残った言葉を思い起こしながらこれからの心の糧にしていきたい。
- ・北鎌倉と熊本にある葉祥明さんの美術館に行ってみたくなりました。
- ・とてもあたたかい朗読の時間、ありがとうございました。とても心に響きました。
- ・心にすっと言葉が入って気持ちが変わるようになってきました。

ひとりで悩まないで、こころの苦しみを、お話しください。

自殺予防 いのちの電話
 0120-738-556
 毎月10日（フリーダイヤル）
 8:00～翌日8:00（24時間・無料です）

ご来場のお礼 智内威雄 公開講演会

皆様のおかげで公開講演会（ピアノ演奏&千花有黄さんとの対談）を開催することができました。

「ピアノ演奏&対談」という初めての試み、そして正月明けという不安もありましたが、約850名の方にご来場いただきました。また多くのご寄付もいただきありがとうございました。

本講演会は埼玉県助成金により、相談員募集のPRを主目的に行いました。繋がらない電話解消には相談員増が必須です。140名の方からアンケートの回答をいただきました。一部を紹介します。

- ・心に響くものがありました。人間の可能性に驚きと凄さを感じました。感謝。
- ・障害とは何なのかと考えさせられました。心より感謝いたします。
- ・多くの人に活動的主旨等を伝えるために演奏と対談を組み合わせたのは良かった。つらい事を経て今の姿がある智内さんの話は説得力がある。
- ・私にも輝ける何かがあると信じる事が出来る、そんな思いにさせて頂きました。
- ・短所を長所にかえる意識が素晴らしいと思いました。演奏もお人柄も最高！
- ・この一年も背筋を伸ばして日々過ごしていこうという励ましをいただいた気持ちです。今日は、この場にいられたことを感謝です。ありがとう。
- ・どんな困難にあってもあきらめない努力をすること、深く感銘した。
- ・いのちの電話のイベントには初めて参加しました。ゆくゆくは電話相談ボランティアをやりたいと思っております。今は無理ですが今回参加してその思いを強くしました。



編集後記

2012年度は“一人ひとりの生きる力を信じて”をテーマとして広報誌創りをしてきました。

広報誌への感想をお願い致します。埼玉いのちの電話のホームページにご意見等の投稿欄を設けています。
(W)



大切ないのちを守りたい

責任の
武州ガス
 ウィズガス

川越市田町32-12
 TEL(049)241-9000

<http://www.bushugas.co.jp>